

# 法政大学第一高等学校同窓会報

発行所 法政大学第一高等学校同窓会 電話 0422-22-8131(代)  
発行人 川城 官工門 東京都 杉並区 下高井戸 5-7-22  
(題字は馬場校長筆) 昭和61年10月1日 (水) 第12号

本会は母校の発展を願う卒業生が相互の親睦を密にし、互助の実をあげることを目的とする。  
(規約第2条)

昭和六十一年度

## 方針とご挨拶

### 創立50周年を祝して

会長 野村 光一



会員の皆様にはご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

母校は本年、創立50周年を迎えました。ここに会員の皆様とともに心からのお祝いを申し上げます。

母校は戦中・戦後の困難な時代を幾星霜乗り越え、半世紀にわたり発展と繁栄に向かって歩ゆんでまいりました。半世紀の歳月は、短くもあり永くもあり、又、平たんな道、険しい山坂、酷暑、寒冷、けつして楽な道すじではなかつたと思います。そして五十年を経た今日、厳しい道程を経て、法政大学の附属校として自由で明るい環境づくりの中で、「自主・自立」の校風の学校としてゆるぎなき社会的地位をかち得てきました。私達は、母校のこの様子を眼のあたりにみて、胸を張り

我が同窓会は、会員相互の親睦を図ることは勿論ですが、母校の発展を心から念じ願っており、昨年から母校と一体となり、50周年事業の推進しております。そして今後、50周年記念事業として記念会館は立派に建設され、ニュージランド・ケルストン高校との国際交流も行なわれ、教養文化講座も開講されました。又、母校の五十年史も編集され近々発刊されます。更に50周年の記念式典・祝賀会は十月一日(水)新しく建設された記念会館において、法政大学総長他のご来賓を迎え、盛大に挙行されました。

同窓会におきましても昨年来た昭和六十一年度の方針として、50周年記念基金、同窓会名簿の刊行、50周年記念総会の開催などを推進してまいりました。

昭和六十一年度の方針につきましては、昨年度に引続いて運営してまいり方針であり、

これにつきましては、昭和六十一年六月十八日(水)四谷・主婦会館で開催されたクラス委員会において確認されました。

1. 50周年記念募金  
50周年記念募金につきましては、一昨年の甲子園出場募金に引続いて、会員の皆様の絶大なご協力を得て、当初の目標を達成することが出来ました。会員の皆様のご協力に對しまして厚くお礼申し上げます。

2. 同窓会名簿の刊行  
同窓会名簿の刊行については、名簿編集委員長を中心としたスタッフが、各クラス委員から提出を受けた原稿で現在編集中であります。

3. 50周年記念総会の開催  
50周年記念総会の開催については、総会準備委員長を中心として諸準備が進められ、来たる十一月十六日(日)午前十一時から、新しく建設された母校の50周年記念会館で実施いたします。半世紀に一度の記念すべき総会であるため、法政大学青木総長、馬場校長他のご来賓を迎え、50周年記念にふさわしく、歴史に残り、出席者の心にも残る総会にいたすよう各般( )をいたしたく思います。

4. 50年史資料の提供  
既に五十年史編集委員会に情報、写真などの提供を行い、近々、発刊の運びとなっております。

5. 同窓会史の発行  
同窓会史の発行については、「同窓会史の歩み」として刊行することとなりました。同窓会運営は、会員相互の心の交流を基盤とする地道な努力の積み重ねであり、創立以来辿ってきたいろいろな道のりをかみしめ、同窓会の益々の隆昌を念じます。

6. その他  
○50周年特集会報の発行  
○組織の強化  
○会費の徴収  
○同窓会規約のみなおし  
検討

等々につきまして、積残したものは、引継いで促進する所存でございますので、クラス委員の皆様のご協力、ご支援をお願い申し上げます。ご並びに、会員の皆様とともに母校創立50周年を祝い、そして母校の益々の隆昌を念じ、乾杯。

私達の学校は、今年創立50周年を迎えます。昭和十一年、法政大学の長男として呱呱の声をあげて以来、半世紀経ちました。この間、戦中、戦後の困難な時代を乗り越えて、法政大学の「自由と進歩」の伝統を受け継ぎ、「自主・自律」をモットーに、今日の姿を築いてきました。

今日まで、私たちの学校を育て、盛り上げてくださった方々のご厚志に、ご恩に報いるにはどうするか。それは、これまで築かれてきた財産をただ、受け継ぐだけでなく、これを豊かに実らせ、さらにこれを広げていくことだと思います。

私たちは創立50周年を迎えるに辺り、これを「単なる記念の年とするだけでなく、過去の歴史から学び、将来的展望を切り開く第一歩とする」という決意を新たにしました。そのために前々から準備を進め、50周年記念会館の建



名誉会長 馬場 昌平

### 創立50周年を迎えて

私たちの学校は、今年創立50周年を迎えます。昭和十一年、法政大学の長男として呱呱の声をあげて以来、半世紀経ちました。この間、戦中、戦後の困難な時代を乗り越えて、法政大学の「自由と進歩」の伝統を受け継ぎ、「自主・自律」をモットーに、今日の姿を築いてきました。

今日まで、私たちの学校を育て、盛り上げてくださった方々のご厚志に、ご恩に報いるにはどうするか。それは、これまで築かれてきた財産をただ、受け継ぐだけでなく、これを豊かに実らせ、さらにこれを広げていくことだと思います。

私たちは創立50周年を迎えるに辺り、これを「単なる記念の年とするだけでなく、過去の歴史から学び、将来的展望を切り開く第一歩とする」という決意を新たにしました。そのために前々から準備を進め、50周年記念会館の建







# 周年(1936年~1986年)を迎える



母校法政一高が記念すべき50周年を迎えました。学校長ならびに学校関係者の皆様、また数々の思い出とともに母校を巣立った同窓生の皆様おめでとうございます。同窓生各位にはこのよき日を心からお祝いし、母校の一層の飛躍と発展を祈念されていることと思います。

前号の会報で詳報のとおり、この日のために母校では、学校を挙げての記念事業を計画し、「50周年記念委員会」のもと推進がはかられ、事業計画の一部はすでに完成されています。同窓会においても母校に歩調を合わせ、独自の記念事業を計画し、各位の支援協力のもと推進がはかられていることは、今号の会長の挨拶に述べられておられます。

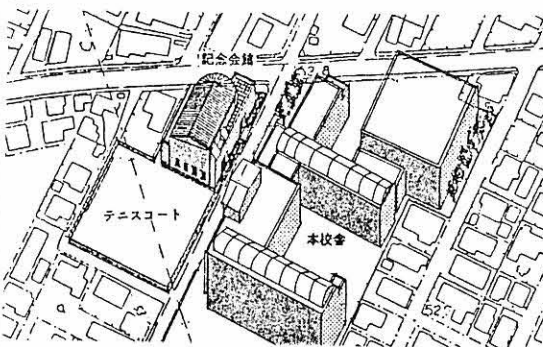
今回は、母校の記念事業の進捗状況、プロ野球解説者として活躍中の一高OB田淵幸一の寄稿文、さらに兄弟校法政二高関連の記事を関係資料から抜粋し掲載いたしました。

## 母校記念事業計画の進捗状況

### 記念会館の建設

昨年十二月に着工した「記念会館」は、予定通り工事が進み、九月二十五日(木)に竣工式が行われ、十月一日(水)総面積 約二五〇平方メートル、総工費 約六億円

### 記念会館見取図



### 建築概要

1.	敷地面積	2490.14 (㎡)
2.	建築面積	801.86 (㎡)
3.	延床面積	2247.69 (㎡)
	地階	717.20 (㎡)
	1階	729.52 (㎡)
	2階	696.11 (㎡)
	3階	104.26 (㎡)

## 教養文化講座の開講

昭和六十一年度の開講に当って

校長 馬場 昌平

昨年初めて、「教養文化講座」を開講したところ、PTAの会員をはじめ、卒業生の父母、卒業生、地元の方々、予想以上に多数参加下さって、どの講座も、熱意と意欲に溢れ、また受講生相互の学習を通じて得た親しみの輪も、ますます広がって、大きな成果を収めることが出来ました。

今更ながら受講生の皆さん方の文化的要求の激しき、そのレベルの高さに圧倒される思いがいたします。

また、この「教養文化講座」は、受講生一人ひとりが講座に参加して、みずから学習を深めるだけでなく、受講生相互で協力し合い、自主的に運営するという、素晴らしいルールも生み出して来ました。

今年も、私達の学校の創立50周年の年に当ります。「教養文化講座」も、この記念の年にふさわしく、いよいよ、内容を充実させて、いっそう発展させていきたいと望んでおります。

秋には、作家・松本清張氏の記念講演も予定され、また、従来の講座に加えて、元NHKアナウンサー酒井宏氏の「話し方教室」の講座も開講されます。



### 教養文化講座顧問

- 松本 清張氏 (作家)
- 藤原 てい氏 (作家)
- 舟橋 尚道氏 (法政大学教授)
- 光岡 知足氏 (東京大学教授)
- 永畑 道子氏 (教育評論家)

### 講座内容と講師

- インド美術とシルクロード 馬場 昌平
- 古典を読む集い 正木 信一
- コーラスの会木村 勇三
- 「近松」を読む 二宮 賢一
- 絵画教室 斉藤 隆
- バレエボール教室 清水 則康
- 話し方教室 酒井 宏

## 新しく校旗を作成

母校の校旗は、  
○中学校：京紫色地  
○高校：赤色地

しかし、この校旗は、戦後間もなく作ったもので、大分古くなりました。汚れも目立つようになり、また、中学校の校旗はありません。そこで、50周年を機会に、新調することになりました。

もちろん、デザインは変わりますが、この校旗は、今日までの学校の象徴であるばかりでなく、戦後、四回も甲子園のグラウンドを選手と共に歩いた。思い出大きいものですから、大切に保管いたします。

そして、50周年を機に、学校が新たに出発する第一歩を踏み出すのに合わせて、新たに高く掲げられます。

## 「50年史の小冊子」を発行

「50年史」を要約した小冊子が発行された。

これは新書版で約二百ページのもので、母校の生い立ちから、第二次世界大戦の戦中、戦後の変遷、大学付属校として、ゆるぎない社会的地位を固めた現在に至るまでの歩みを要約して編集されており、在校生に配布された。

# 母校法政一高創立50

## 高校時代の思い出

田淵 幸一

私は甲子園出場に憧れて法政一高に入学したが、遂に甲子園出場はならず卒業した。民家の人に水を飲ませてもらったが、私にとっては忘れられないことのできなない青春の一ページとなった。

高校時代起きた出来事は、すべて脳裏に焼きついている。五里坊主頭で朝七時にグラウンドへ行ってグラウンドを均し、授業終了後五分間でユニホームに着替えて練習に出た。真暗なグラウンドで大声で、「高田中学出身タブチコウイチ」と自己紹介の毎日。三時間の練習中、終始声を出させられてノドを痛めた。

泣きながら牛の骨でバットみがき、ボール縫い。一日一ダースが一年生の持ち分で、授業中に縫って先生にしかられたこともあった。

夏休みは一日もなく、午前九時から夜八時まで連日練習は堀越高校へ行かれることになり、我々は一緒にいきたいと願望したものだ。だが新任の中西監督の下で再び甲子園



田淵 幸一氏

向けてスタートした。三年春、茨城県石岡合宿が私にとって今思えばホームラン打者の第一歩だった。合宿中、40度の熱に襲われた。三日間うなされながら寝込んでいた。合宿の初日に雪の中を約15キロもある山道をランニングして風邪をひいてしまったのだ。

きなりバットを握り打撃練習。その時は疲労がとれていたせいか振りがよく、両翼95メートルもある広い球場をところ狭しと、なんと19本立て続けアーチをかけた。ボールを遠くへ飛ばすコツをその時になんとなく掴んだような気がする。

松永監督が辞められ、甲子園に出場のできる最後の年というところで、気持の上では、病気になったとはいえ必死だったことを今でもはっきり覚えてい

正直いって成績の方は練習練習で毎年のように職員会議にかかり、進級するのがやっただった。両立はむずかしい。だが、「松永野球」はそれを実行しなければ野球部も退部しなければならなかった。

三年間野球一筋で終った。野球がしたいために受験勉強も徹夜したものだ。

授業中、練習の疲れで居眠りする事も少なくなかった。だが、甲子園へ夢を抱く野球部員の気持ちを理解してくれ

先生もいた。当時、舟木一夫、西郷輝彦、橋幸夫が御三家と言われた時代で、舟木一夫の「高校三年生」の替え歌をつくったものだ。

青い坊主が グランド照らし 夢の甲子園 猛練習 練習後にユニホームを着替えながら部室で歌ったことが懐かしい。

野球は「基本」が大切と言われている。私は高校三年間に松永先生のおかげでその土

石原 寿校長は、「創立50周年（一九八九年）にむかってスタート

「本校の次の半世紀のはじめが近づいてきます。学校は、この50年の区切りを歴史的發展、画期的な年とすべくかねてから期待をこめてきました。いたずらにその年を待つのでなく、昭和六十四年（一九八九年）にむかって可能なかぎりの土台づくりをする、五カ年をその成果の積み上げの特別の期間として位置づけま

台をしっかりと作ってもらったような気がする。厳しい練習、厳格な規則にしばられるが、それを乗り越えて来た。この自信と自負を私は大学野球、そしてプロに入ってから

も常に持ちつづけてきた。今の私があるのは法政一高時代の松永式野球の精神教育があったからだと思つて感謝している。

（本稿は学校の了解を得て、「50年史の小冊子」から転載しました）

### 法政二高が創立50周年

#### （一九八九年）にむかってスタート

兄弟校法政二高が、昭和六十四年の創立50周年を目標し活動を開始した。

「本校の次の半世紀のはじめが近づいてきます。学校は、この50年の区切りを歴史的發展、画期的な年とすべくかねてから期待をこめてきました。いたずらにその年を待つのでなく、昭和六十四年（一九八九年）にむかって可能なかぎりの土台づくりをする、五カ年をその成果の積み上げの特別の期間として位置づけま

あります。改革、改善、重点の設定、学校の地域への基盤の強化拡大等々であります。法政大学における積極的地

字通り輝かしい年としてむかえることができるでしょう。また、記念事業についてもつぎのように多催な計画が樹られていきます。

- 「創立50周年記念事業 計画概要」
- 一、50年史の編纂、発行
- 二、卒業生名簿の作成
- 三、その他の出版事業
- （1）記念論文集の発行
- （2）文、体連史の発行
- （3）教養学校の出版事業
- （4）奨励基金の設立
- 四、奨励基金の奨学、奨励事業
- （1）海外遠征交流事業
- （2）海外見学研修事業
- （3）その他
- 五、スポーツ振興基金の充実
- 六、教育環境整備事業
- （1）校舎の改修
- （2）校地の緑化
- 七、50周年記念式典（功勞者の表彰）
- 八、記念品の作成
- 九、50周年記念行事（体育祭、二高祭、慰霊祭）
- 一〇、50周年記念レリーフの製作
- 一一、50周年記念卒業生の集い
- 一二、50周年記念事業基金募金事業

以上、法政二高の50周年にむけての取組みを紹介いたしました。法政二高の一層の発展を祈り、記念事業の完遂に声援を贈り報告いたします。

昭和六十四年（一九八九年）は、文

# 土居音三郎先生を 偲んで



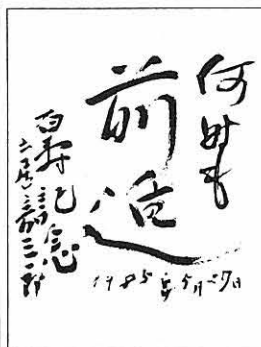
(ありし日の)  
土居先生

土居先生の百寿のお祝いで、数学科の先生方と一緒に、先生にお目にかかったのが最後になってしまいました。まだまだお元気なお顔に接しられるものと思っていましたので、本当に悔まれてなりません。先生のごことは会報第十一号で、近況をかねてお知らせしたのですが、いまあらためて先生の生き方について、もつともつと教えを受けておけばよかったという感じがします。私が四十年間、先生からお世話になって、おろかにも、今気がついたことは、「人生を積極的に生きるんだ」ということです。先生はまさに人生を積極的に生きた人でした。このことは教育の面では、たえずの研究心となつて、生徒にわかりやすい数学の教育方法を百才になつても考えておられたことです。特に戦前から海外の教科書を取りよせ、移動による幾何を創り出したこととは、数学教育において誇れる業績であつたと思つています。また、近くは小学校・中学校の数学の教育に対して、現在の体系が、生徒の理解を困難にしている点を、先生の広い人脈を通じて文部当局に働きかけていたことなど、まさに人生の生き方を示したものでした。

先生が一世紀を生き抜いたことだけでも大変なことですが、その一生は決して平坦なものではなかつたと思われまふ。共に苦勞をかさね、豊かな家庭を築きあげた奥様に、数十年前に先き立たれたことや、前立腺肥大で九十才をえて入院手術をされたことなど、悲しみや苦しみを乗り越えて生きてこられたこと、この間一緒に生活されているご子息の家族の手厚いご孝養にいつも感謝されている毎日でしたが、自分の心のうちを理解出来るのは、家内だけ

だよと、肌身はなさずもつていた一葉の奥様の写真を見せられたこともありました。先生がどんな理由で熱心なクリスチャンになられたのかお聞きする機会がありませんでしたが、手術後のベッドの中で、ロザリオを手に、神に感謝を捧げ、その加護を祈られた先生のお姿は、苦しみに打勝つて生きようという姿そのものでした。先生は、学校では歩こう会、体育後援会長など、地域では、道路の清掃、教育を通じての数々の善行など、また郷土の高知県への貢献など、(文責 塗谷弘道)

ど、数多く世のため人のために、さりげなくつくつてこられました。素人ばなれの囲碁による多くの人々の交流や一病息災を守つて、健康法の実行と研究も長寿をささえてきました。先生が百寿の祝いで数学科に「つねに前進」と色紙にかけて下さつたお言葉こそ、先生がのこした最大のおくりものと思つています。積極的に生き抜くことこそ先生のご遺志にこたえるものと思つています。



(昨年引続いて)  
掲載しました)

## 法政附属高校同窓会

### 役員懇親会開催

副会長 岩村元雄

昭和六十一年十一月二十日(水)午後六時より港区の「愛宕荘」において、法政大学附属高校(法政一高、法政二高)の役員が初めて一同に会し懇親会が開催されました。

当日は、各校同窓会の運営状況等の報告があり今後全法政( )を願つて大いに協力

し合つていくことを申し合わせました。

各校の報告大要はつぎの通りです。

一高、野村会長 『昨年は一高野球部の春、夏甲子園出場と同窓会として、募金、応援に大活躍し母校との相互扶助の実を上げることが出来ました。昭和六十一年秋には

## 商業三期会

夏の宵のひととき

本校創設期の昭和十三年に入學、戦争に突入した昭和十七年十二月に繰上げ卒業、同期生の何人かが戦死、そして灰塵と化した中からの日本経済への貢献が今日の経済大国に結びつく努力をした世代人として、互いに還暦を祝つて集まろうと七月十七日(木)の夕、日比谷公園に29人が参集、恩師の江口 智先生と同窓会から野村光一会长を迎え



苦労しているところです。二高、池谷会長 『昭和六十一年四月より二中開設、名実共に附属校として脚光を浴びております。総会は二年に一回開催、会報は毎年発行、OBで二高の教師でもある藤沢事務局長がいるので名簿編纂はスムーズにいつております。』

女子高、荒井会長 『同窓会員も一万人を越えるようになり運営が大変になってきました。総会はオレンヂ祭として毎年開催、会報も年一回発行しております。女子の場合、結婚で住所変更が多く名簿の整理が大変です。』

一工高、畔柳事務局長 『昭和四十三年三月卒業生をまわりましたが、同窓会員は約一万人、現在でも總會を毎博、倉本三郎、畔柳正盛

- 年開催しております。新規会員はおりませんが、それだけに結束は強く協調性が発揮されております。』
- 当日の出席者(敬称略)
- (一高) 野村光一、大木興、上田三代治、前田賢文、岩村元雄
  - (二高) 池谷菊雄、藤沢秀雄、宮崎一郎、和田竜宏(女子高) 荒井仁子、館野道子、三浦幹枝、近藤静子、中溝秋前
  - (一工高) 中西政一、恩田博、倉本三郎、畔柳正盛
- 幹事 一組 西田 実  
二組 西澤稜威雄  
三組 西村 常治  
(西澤稜威雄記)



一高創立50周年を迎えるので同窓会も母校の記念行事に呼応して、記念總會を開催する予定でこれから準備に取り組みとごころです。

昭和六十一年三月で同窓会員は約一万五千名、總會を二年に一回開催、会報を一年に一回発行、名簿を随時発行、会費の徴収と名簿( )実に大変





# 夏の高校野球

「都予選」西東京大会で惜しくも四回戦で敗れる

夏の高校野球都予選は、七月十三日(日)開会式が行われ、甲子園へ向けて熱戦の火ぶたがきられた。今年は、東西合わせて史上最多の二百四十一校が参加し全国有数の激戦大会であった。

母校一校は、五十九年の春夏連続甲子園出場校として今年大会においてもタークホース的な存在として注目を浴びていた。

四回戦の対東亜学園戦で敗れたが、二回戦の対中大附戦では逆転勝ち、三回戦の対都立千歳丘戦では八回コールド勝ち、前評判どおりの戦い振り、西東京の強豪としての地歩をさらに堅めたものでした。選手一同の健闘を称えるとともに、今後とも練習に励みより大きな成果が得られることを期待しております。

## 試合結果

(2回戦) 法政一 9-8 中大附

(3回戦) 法政一 7-0 都千歳丘

(4回戦) 法政一 0-7 東亜学園

(7回コールド)

# 法政一中野球部都大会優勝!!

第三十九回東京都中学校野球選手権大会は昭和六十一年七月二十五日(金)より各地区別より勝ち抜いた三十五校によって熱戦が繰り広げられました。我が法政一中は武蔵野・三鷹地区(十七校)トーナメントで優勝し地区別代表として猛暑の中、連日大健闘見事東京都大会に於て優勝の栄冠を勝ち得ました。

- 武蔵野三鷹地区大会
  - 法政一中 4-1 三鷹三中
  - 法政一中 6-1 武蔵野一中
  - 法政一中 3-2 三鷹二中
  - 法政一中 1-0 武蔵野二中
- 東京都大会
  - 法政一中 3-1 桜美林中
  - 法政一中 4-3 早実中
  - 法政一中 4-1 立教中
  - 法政一中 4-0 麻布中



法政一中 0-4 阿南(中) 両校投手の頑張り、緊迫した投手戦になったが阿南一中は七回法政一中の守備の乱れを阿南一中投手の2ランホームランなどにより一挙4点をあげ勝敗を決した。

法政一中の野球部が成し遂げた快挙は、創立50周年にまさに錦上添花を添えるものということができます。選手一同の健闘を称え、ともに一中野球部飛躍の年とし、今後につなげるよう努力していただきたい。また、一高野球部同様、先輩方の暖いご声援をお願い申し上げます。(岩村元雄記)

## 61年度入学者状況

中学校		合格者・入学者						
募集人員	志願者	受験者	(欠席者)	合格者	手続完了者	登校者数	入学者数	
80	659	626	(33)	129	85	85	85	

高等学校		正=正規合格				補=補欠合格			
	募集人員	志願者	受験者	(欠席者)	合格者	手続完了者	登校者	入学者	
推薦	70	438	436	(2)	205	200	188	188	
一般	200	1036	1008	(28)	200	78	74	74	
					52	30	29	29	
計	270	1474	1444	(30)	457	308	291	291	
法一中							74	74	
合計							365	365	

## 60年度進路状況

中学校			
法政一高	74	その他の高校	4
計	78		

高等学校				法政大学1部への推薦内訳			
卒業生総数	進路内訳		%	法政	経済	工機	文科系
365	法政大学 1部推薦	291	79.7	42	61	15	238
	法政大学 2部推薦	33	9.1	15		11	
	他大学	0	0	4	13	6	工科系
	各種学校	10	2.7	11	29	6	53
	その他(就職・浪人)	31	8.5	2	57	11	計
				2		4	291

## 編集後記

短かい夏が去り、その反動でしょうか、厳しい残暑がここのほか長く感じられました。同窓生の皆様にはご健勝にてご活躍のことと思います。

▼会報第十二号をお届けします。今号は母校創立50周年を迎えるのを記念記事として、田淵幸一氏の寄稿文を掲載いたしました。懐かしい学生時代の思い出に心を回らしてお読み下さい。▼兄弟校法政二高が創立50周年に向けてスタートしました。全法政の結束と発展のために協力し、暖い声援を贈りましょう。▼土居先生が三月二十一日(金)他界されました。50周年記念総会を前に誠に残念なことです。

塗谷先生に追悼文をお願いいたしました。生前の先生の真摯な姿勢、情熱的な語り、が彷彿とします。心からご冥福をお祈り申し上げます。▼法政一中野球部が第八回全国中学校軟式野球大会に出場しました。まさに50周年記念に花を添える快挙です。一中、一高両面野球部が切磋琢磨することによりレベルの高いチームに成長するよう期待いたします。▼記念総会にはぜひとも多数の方のご出席をお願いいたします。▼皆様の会報です。ご意見、記事等をご送付下さ

※送り先 法政一高同窓会事務局又は、〒168杉並区下高井戸5-7-22 川城官工門宛